

令和 8 年度 県立水戸聾学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安全・安心であたたかな学校 ◆互いに認め合い、主体的に学び合い、そして高め合える学校 ◆家庭・地域社会と連携し、子供の育ちを支える学校児童生徒が主体的に学ぶ学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめと認定したうちの 1 件について対応し解消した。 ○学校運営協議会において、高等部生徒を交えて今後の聾学校の在り方について協議を深めることができた。 ○出前授業、ボランティア受入等により、各大学との連携が強化された。 ○チェックシートの活用によるコンプライアンス意識の醸成、企画会・衛生委員会での職員の情報共有が図られた。 ○勤務時間外在校時間の月 45 時間以内、年間 360 時間以内を達成し、職員の意識の醸成が図られた。 ○メールやアプリを活用した保護者通知が定着した。 	<p>1 安全・安心な学校生活の中で、健康で豊かな生活の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 安全管理及び安全教育の推進（施設の点検、防災意識の向上、各種応訓練等） ② 発達段階に応じた基本的生活習慣の確立（挨拶、生活リズム、時間管理等） ③ 他者を受容し認める心を育て、人権意識の高揚を図る。 ④ 養護教諭、栄養教諭と連携し健康教育や食育の一層の推進を図る。 	
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教員個々の主体的な研修についてさらに意識の向上。 ●療育休暇取得者（長期）が 2 名おり、今後も個々の状況に応じた職員支援が必要。 ●行事及び行事運営方法の見直し改善。 ●ICT活用事例は少しだが共有された。今後も個に応じた活用方法の検討。 	<p>2 育成を目指す脂質・能力を育む授業力の向上と専門性の継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々の実態把握を基に、個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）とを「協働的な学び」を推進するの一体的な充実を図る。 ② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むとともに、ICTの効果的な活用を図る。 ③ 聾教育の専門性を高める研修体制の充実と自己の強みを生かした指導の蓄積を図る。 	
	<p>3 「自立と社会参加」にむけた実現可能な教育活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標設定シートにより根拠を明確にした自立活動の指導を充実させる。（目標、内容の妥当性） ② 各部の系統性をふまえたキャリア教育を推進する。 ③ 自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシティズンシップ教育を充実させる。 ④ 地域資源を活用した学習活動（見学、実習等）の充実と共に地域との協働活動の推進を図る。 	
	<p>4 聴覚に障害のある子どもの達への理解啓発と共生社会への基盤作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制強化と理解啓発を推進する。 ② 各種相談支援（早期教育含む）等においてアセスメントに基づいた適切な指導助言に努める。 ③ 情報発信に努め、本校教育への理解促進を図る。 ④ 同窓会、聴覚障害者協会など当事者団体との連携に加え、小中高等学校、大学、地域社会等と連携した活動を推進していく。 	
	<p>5 服務規律の確保と望ましい働き方の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの人権を尊重し、模範となる言動、振る舞いに一層努める。 ② 月 45 時間、年間 360 時間以内の超過勤務の遵守を基本に、自身の家庭状況や自己の業務のバランスをとりながらも、互いに助け合う体制を作っていく。 	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	幼児児童生徒のニーズに応じた教員の手話技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> 手話推進委員会を設置し、教員向け手話研修会の実施を実施する。 クラスルームを活用し手話に関わる情報提供を行う。 大学等外部機関との連携を図る。 	1-② 2-③ 3-④ 4-④		
教職員の 育成及び 指導・監督	新規採用及び中堅研修対象者の授業力及び事務処理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用及び中堅研修対象者に対する校内研修の充実を図る。 それぞれの研修の目的や手法を職員間で共有し学校全体として取り組む。 	2-① 2-② 2-③		
対外活動	外部機関との連携による体験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議等で周知し計画段階から内容や連携相手を検討する。 児童生徒の発達段階や各部の系統性を踏まえた活動を行う。 	3-② 3-③ 4-③ 4-④		
コンプライ アンス確保	職員のコンプライアンス意識涵養（自分事として捉える）	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス推進計画の見直し改善を行う。 同じ内容でも手法を変えて繰り返しコンプライアンス研修を定期的に行う。 	1-① 1-③ 5-①		
働き方 改革	ペーパーレス化やデジタル化による業務効率化と業務削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> Classroom、Chat 及び GoogleForms 等を活用して情報提供及び情報共有を行う。 メールやアプリを活用した保護者通知等を増やす。 	5-②		
I C T活用	電子決裁システム（ワークフロー）等の活用によるタイムマネジメント推進	<ul style="list-style-type: none"> 利便性向上のためのひな形の改善及び新規作成を行う。 タイムマネジメントの手法等について周知を図る。 	2-② 5-②		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない